

# アジア諸国等文化遺産保存修復協力<sup>(コ2)</sup>

**研究組織** 金井健、友田正彦、安倍雅史、間舎裕生、浅田なつみ、ヴァルエリフベルナ、岡崎未来（以上、文化遺産国際協力センター）、山田大樹（客員研究員）

**目的** 東南アジア、西アジア及びその周辺地域における文化遺産の保存活用に関する調査研究の実施ならびに当該地域で行われる文化遺産の保存修復事業への協力を通じて、我が国が有する文化遺産保護に関する技術移転を図るとともに、この分野での国際協力を推進する。

## 成果

### 1. カンボジア アンコール・タネイ寺院遺跡保存整備事業に対する支援等

#### ア) アンコール・シエムレアプ地域保存整備機構 (APSARA) との共同調査の実施

東門の修復工事（再構築）の完了確認及び要修整箇所  
の調査、アンコール保存事務所 (ACO) 保管のタネイ  
寺院遺跡出土彫像遺物の調査、東門周囲の水はけ改  
善に向けた外周壁東面の発掘調査と排水対策案の検  
討、中央伽藍建物群の危険箇所の確認と構造補強案  
の再検討（2022（令和4）年1月9日～24日）

#### イ) アンコール遺跡保存国際調整委員会 (ICC-Angkor) 技術会合への参加等（オンライン）

ICC-Angkor アドホック専門家会合への参加（2021  
（令和3）年6月28日～29日、10月11日）、ICC-  
Preah Vihear 第6回・第7回技術会合の傍聴（9月  
29日、2022（令和4）年3月22日）、在カンボジア  
日本大使館のタネイ寺院遺跡視察への資料提供（11  
月9日）、ICC-Angkor 第28回総会及び第35回技術  
会合への参加（2022（令和4）年3月24日～25日）

### 2. ネパールの被災文化遺産保護に関する支援

JICA 短期専門家派遣による考古学発掘調査及び測  
量調査手法に関するネパール文化観光航空省考古局  
(DoA) 職員への技術移転及びハヌマンドカ王宮内シ  
ヴァ寺院基壇部の現状調査（2021（令和3）年12月3  
日～19日）、ネパール復興庁 (NRA) 主催の国際会議  
ICNR2021 への参加（12月7日～9日）

### 3. オンライン研修及び研究会

ア) 国別テーマ研修・インドネシア「文化遺産の保護  
に資する研修」（ACCU 奈良事務所主催）への協力  
（2021（令和3）年10月8日～21日）

イ) 研究会（ウェビナー）「考古学と国際貢献：イスラ  
エルの考古学と文化遺産」の開催（2022（令和4）年2月  
20日）

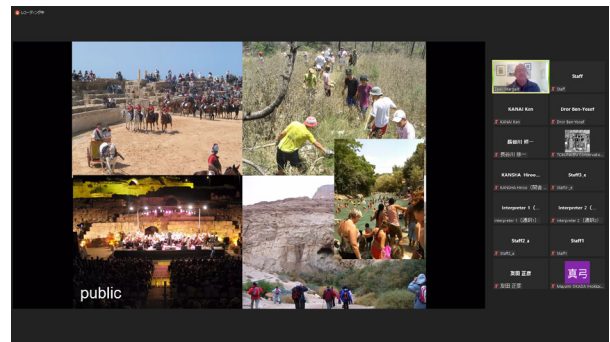
ウ) オンライン国際研修「3次元写真測量による文化遺  
産の記録」の開催（2022（令和4）年3月15日）

## 発表

- 金井健「建築遺産における写真の役割」ACCU 奈良事務所  
国別テーマ研修・インドネシア 21.10.14
- 間舎裕生「日本の調査隊によるイスラエルの考古学調査  
の歴史」研究会 考古学と国際貢献：イスラエルの考古学  
と文化遺産 22.2.20

## 刊行物

- 『考古学と国際貢献：イスラエルの考古学と文化遺産 研  
究会記録』東京文化財研究所 22.3
- 『大陸部東南アジアの古代木造建築を考える』東京文化財  
研究所 22.3
- “Exploring the Ancient Wooden Architecture in  
Mainland Southeast Asia” Tokyo National Research  
Institute for Cultural Properties, 22.3
- 『アジア諸国等文化遺産保存修復協力 令和3年度成果報  
告書』東京文化財研究所 22.3



研究会（ウェビナー）「考古学と国際貢献：イスラエルの考古学と文化遺産」  
ゼエヴ・マルガリート博士の発表

日 時：セッション1：2021（令和3）年8月30日（月）～10月1日（金） 公開  
 セッション2：2022（令和4）年1月14日（金）～2月25日（金） 公開  
 会 場：動画配信  
 参加者：270名

内 容：

#### セッション1【事例報告】

高田和徳（御所野縄文博物館）「変化する遺跡公園 —実験・検証による整備とその活用—」  
 吉岡泰英（元福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館）「『史跡公園』を目指した一乗谷の史跡整備」  
 Douglas Comer (Cultural Site Research and Management) "World Heritage Authenticity and SEIBI"  
 Duncan McCallum (Historic England) "The approach to reconstruction at nationally important historic sites in England"

#### セッション2【討論】

Douglas Comer、市原富士男（文化庁）、稲葉信子（筑波大学）、Richard Mackay (Mackay Strategic Pty. Ltd.)、  
 Duncan McCallum、友田正彦（東京文化財研究所）、西和彦（東京文化財研究所）、松浦一之介（東京文化財研究所）

文化遺産国際協力センター

プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

## 考古学と国際貢献：イスラエルの考古学と文化遺産

(③コ02の一部として実施)

文明揺籃の地であるユーラシア大陸南西部には多くの考古遺跡が存在し、欧米を中心とした調査隊が19世紀から発掘調査を行ってきた。同地域に対しては日本も同様に調査研究の膨大な蓄積があり、さらに近年では、遺跡を有する国の研究者が主体となった調査も盛んに行われるようになってきている。中でも文化遺産保護の熱心な取り組みがみられるイスラエルを対象に、同国の実務者より国立公園として進められている史跡整備の現状について、また日本国内の研究者による同国の考古学及び関連分野の研究についての講演を行うとともに「考古学と国際貢献」をテーマとした講演者によるパネルディスカッションを行った。

日 時：2022（令和4）年2月20日（日）14:00～17:00

会 場：ウェビナー

使用言語 日本語・英語（同時通訳）

参加者：76名

プログラム：

趣旨説明 金井健（東京文化財研究所）

講演

ゼエヴ・マルガリート（イスラエル国立公園局保存開発部長）「イスラエル国立公園における考古遺跡の管理」  
 ドロール・ベン＝ヨセフ（イスラエル国立公園局北部地区担当官）「ローマ時代初期のガリラヤ地方—考古学的視点から—」  
 間舎裕生（東京文化財研究所）「日本の調査隊によるイスラエルの考古学調査の歴史」  
 岡田真弓（北海道大学観光学高等研究センター准教授）「イスラエルにおける史跡整備と国立公園制度の役割」  
 長谷川修一（立教大学文学部キリスト教学科教授）「イスラエルにおける遺跡保存と活用の課題—テル・レヘシュの例から—」

パネルディスカッション

モデレーター 長谷川修一

パネリスト ゼエヴ・マルガリート、ドロール・ベン＝ヨセフ、岡田真弓、間舎裕生

刊行物：『考古学と国際貢献：イスラエルの考古学と文化遺産 研究会記録』東京文化財研究所 22.3

文化財情報資料部

プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

## 総合研究会 <sup>(④シ)</sup>

総合研究会は、各研究部・センターの研究員がプロジェクトの成果や経過を発表し、その内容に関して所内の研究者間で自由に討論する場である。令和3年度は下記のスケジュールで開催した。